

10 月定例教育委員会会議録

開催年月日	平成28年10月27日(木)
開催日時	午後3時00分
開催場所	市役所別館 3階会議室
出席委員	委員長 永山真江 委員 岡部博昭 委員 佐藤るり 委員 木下靖郎 教育長 三笥真治郎
出席参与	教育次長 鈴木俊行 教育総務課長 高瀬享 学校教育課長 中島靖彦 社会教育課長 田中孝明 文化財保護課長 池田寿生 博物館長 大島誠一 咸宜園教育研究センター長 竹尾秀広 淡窓図書館長 安養寺雄二 兼 世界遺産推進室長 体育保健課長 渡邊圭一郎 学校給食センター長 永瀬常富 人権・同和教育室長 伊藤伸也
書記	教育総務課 総務企画係 主幹(総括) 衣笠雄司
附議議案	議案第73号 教育財産用地の設定について 報告第24号 平成28年9月期分寄付採納について 報告第25号 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての 点検及び評価報告書の外部評価員からの意見書 について 報告第26号 第6次日田市総合計画・基本構想(案)について 報告第27号 平成28年度全国学力・学習状況調査結果について

<p>永山委員長</p>	<p>皆さんこんにちは。ただいまから10月定例教育委員会を開催いたします。</p> <p>最初に、前回の議事録の確認をします。9月定例教育委員会の議事録について、変更などはありませんか。（「ありません」の声あり）では、本会議終了後に署名をお願いします。</p> <p>それでは、教育長から報告事項をお願いいたします。</p>
<p>教育長</p>	<p>2点御報告いたします。</p> <p>1点目ですが、去る10月22日に「ふるさと県民フォーラム」が大山公民館のホールで開催されました。このフォーラムは、子どもたちの郷土を愛する心の育成を目指しまして、県教委が実施しているものでございます。当日は、大山小学校の4年生と大明小学校の6年生が、地域に残る歴史遺産や文化財を学んだことを通して、教育の歴史や先哲に対する関心が高まったこと、あるいはふるさとを誇りに思う気持ちが高まったことなどをステージ上で堂々と発表してくれました。また、「ふるさとの魅力って何だろう」というテーマでシンポジウムをその後行ったのですが、その中で、大山中学校の3年生が10名以上参加してくれたと思いますが、全員が大山の魅力や今後の大山について率直な意見を述べてくれました。その中で、「地域で挨拶を誰とでも交わすことができ人々が温かいこと」「学校行事や地域行事で地域の皆さんが協力し合っていること」「自然が豊かで食べ物がおいしいこと」など、そういった魅力を上げていました。また、今後の大山については人口が減少していることが課題という意見や、今のままでも十分いいんだという意見もかなり多くありました。この日はたくさんの方に参加いただきまして、ほとんど満席状態で立ち見の方もいらっしゃるほどで、そういう中で子どもたちの堂々とした発表や率直な意見を聞くことができ、参加した私たち大人のほうが子供たちから元気をもらう大変有意義なフォーラムであったと感じております。</p> <p>それから2点目ですが、一昨日、10月25日に長野市で開催されました「嚶鳴協議会 in 長野」に参加してまいりました。資料をお配りしていますが、この嚶鳴協議会というのは、ふるさとの先人を生かしたまちづくり、人づくりなど教育面で自治体が力を合わせて先人の志と行動力に学び、元気な地方の交流を図ることを目的に行っているものでございます。今年でちょうど10回目を迎えています。ご覧のように山形県米沢市の上杉鷹山や神奈川県小田原市の二宮尊徳など、先人を生かしたまちづくりを行っている全国14の市や町が参加しております。今回の長野市の先人は佐久間象山です。地元では佐久間「ぞうざん」と言うそうですが、幕末の思想家</p>

	<p>で吉田松陰や勝海舟、坂本竜馬などに影響を与えた人物でございます。この長野が松代藩でございますが、藩主の真田幸貫に重用されて学問の大切さを説き、門人も多く排出しております。長野は教育県、教育に力を入れている県とも言われておりますが、佐久間象山も間違いなくその源流の一つであると強く感じておるところでございます。廣瀬旭荘も佐久間象山と面会したという記録が日記にも残っているようでございます。現在、NHKの大河ドラマ「真田丸」の影響もありまして、真田邸や松代城跡、あるいは藩校であった文武学校というとても立派な学校がございますが、そこに多くの観光客が訪れておりました。例年の4倍以上観光客が来ているということで、やはり、NHKの大河ドラマの影響というのは相当計り知れないものがあるというような話がありました。この嚶鳴協議会のフォーラムが、来年は日田市で開催する予定でございます。今回参加された皆さんから、咸宜園が日本遺産に認定されて、学校教育の中でも取り入れているということで、来年を大変楽しみにしているという言葉を多くいただきましたので、来年に向けて咸宜園教育の魅力と共に、日田市の魅力が大いに発信できるように計画、準備をしていきたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
永 山 委 員 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、早速議事に入りたいと思います。</p> <p>議案第73号について事務局から説明をお願いします。</p>
教 育 長	<p>議案第73号、教育財産用地の設定について、文化財保護課より説明をいたします。</p>
文化財保護課長	<p>議案集の1ページをお願いいたします。</p> <p>議案第73号、教育財産用地の設定について御説明をいたします。</p> <p>教育財産用地として、次のように所管換えを行うものでございます。</p> <p>所管換えを行う内容につきましては、土地の所在地が日田市丸山1丁目9番1、面積が521.13平方メートルでございます。この土地につきましては、今年5月、財政課が市所有地で大分県地方方法務局に賃貸しておりました田島2丁目の土地との交換契約により取得をしたものでございます。</p> <p>上程の理由といたしましては、豆田地区都市景観形成地区内の永山布政所跡小公園用地として利用したいため、財政課から文化財保</p>

	<p>護課へ所管換えを行うものでございます。</p> <p>所管換えを行います用地の詳細につきましては、次の２ページ、３ページに写真、それから図面を添付させていただいております。ページをおめくりいただいて２ページ、３ページをご覧いただきたいと思います。なお、この土地の隣接地につきましては、文化財保護課で既に小公園として整備を行っておりまして、この整備済みの小公園と一体的な利用が可能になるものと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
永山委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>議案第７３号について、御意見や質問などはありませんか。</p> <p>質問です。今整備済みのところに東屋みたいな座れるところと看板と屋根とありますが、この新しい土地のほうには、永山布政所に関連する何かをつくる予定というのは特にはないんですか。一帯整備だけですか。</p>
文化財保護課長	<p>今のところ今おっしゃられた小公園のような感じでの整備を考えているところです。</p>
永山委員長	<p>公衆トイレなどの設置というのも予定はないですか。</p>
文化財保護課長	<p>今のところ整地だけの予定です。</p>
永山委員長	<p>はい、わかりました。皆さんよろしいですか。</p> <p>それでは、議案第７３号については原案のとおり可決いたします。</p> <p>次に、報告事項に入ります。報告第２４号について説明をお願いします。</p>
書 記	<p>それでは、議案書の４ページをお願いいたします。</p> <p>報告第２４号、平成２８年９月期分の寄附採納についてでございます。</p> <p>９月につきましては、地区寄附といたしまして、１件の御寄附をいただいております。御寄附の内容につきましては、高瀬本町の田中建設株式会社様から南部中学校に対しまして、朝日写真ニュース１年分、４万円相当の御寄附をいただいております。</p> <p>報告第２４号につきましては、以上でございます。</p>

永山委員長	<p>ありがとうございます。御質問などはありませんか。 よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり） では、続いて報告第25号について説明をお願いします。</p>
教育総務課長	<p>続きまして、議案集の5ページをお願いいたします。 報告第25号、教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価報告書の外部評価員からの意見書についてでございます。</p> <p>8月に委員の皆様方にも御出席をいただきまして、大分大学の山崎先生、久留米大学の森先生、別府大学の長尾先生に外部委員の評価をお願いしましたところ、9月末に先生方から意見書が届きました。資料の5ページから12ページにかけて、先生方からいただいた意見書の原文を掲載させていただいております。私から、それぞれいただきました先生方の意見書の概要を説明させていただきたいと思っております。もし、御質問等がありましたら、先生方に内容を確認させていただきまして、最終的にはこれを平成27年度の点検評価報告書の最後のページにつけさせていただいて、12月市議会の教育福祉委員会で説明をし、ホームページに掲載したいと考えております。</p> <p>それでは、まず5ページの山崎先生の意見から説明させていただきます。</p> <p>まず、大項目の1番、教育委員会の運営と活動についてでございます。</p> <p>まず、大きい段落の上のほうでございますが、会議、あるいは研修会も含めて教育委員会の活動が活発に展開をされているということで評価をいただいております。ただ、その段落の下のほうで、「教育委員会が教育に関わる行事等に積極的に参加し、教育委員会の「存在意義や役割」を市民にアピールしている姿が評価できるが、一方では今後さらに教育委員会が市民にとって身近な存在となるよう一層の活動の工夫をお願いしたい」という要望の部分もございます。</p> <p>それと、大きい段落下のほうにございますが、「教育委員が2名増員されたが、それによって従来の教育委員会とは異なった活動が展開されている姿を、市民にわかりやすく示すことも重要である。そこに「市民と共に創る教育行政」の姿がうかがえるように思われる」ということで、課題としていただいております。</p> <p>続きまして大きい項目の2番目、事務・事業の管理及び執行についてのうち、学校教育の充実についてでございます。</p> <p>下のほうをご覧になっていただきますでしょうか。下から3行目</p>

からですが、「主な取組は昨年度と同様の25項目である。25項目中総合評価Bは1項目であり、他の項目は全てA評価である。特に昨年度B評価であった「確かな学力の育成」がA評価になったことは注目すべきである」ということで、学力向上の取組が進んでいるという評価をいただいております。

ただ、一方で6ページの上から4行目あたりからなんですけども、「総合評価Aと目標値、実績との関係がわかりやすく説明される必要があると考える。また、総合評価がBである「施設の効率的な運用と統廃合」に関しては、学校統廃合に伴う共同調理場の統合問題であり、あまり時間をかけることなく解決可能な事項と思われる」というのが課題となっております。

最後の3行目ですが、ここは先生の期待だというふうに考えておりますけども、「義務教育9カ年を見通した小中連携・一貫教育の推進」がうたわれている。市民にとってこの「小中連携・一貫教育の推進」が十分に理解できるような教育行政施策の展開に期待したい」という御意見をいただいております。

続きまして、3項目の社会教育の充実です。

大きい段落が2つありまして下の段落でございますが、「社会教育行政はそれなりの困難を抱えながらも効果的に展開されており、学校教育の項でも指摘したように、総合評価Aと目標値、実績とのわかりやすい説明が必要と考える。また、生涯学習社会の到来や学校教育と社会教育の連携・協働が叫ばれている中、社会教育を取り巻く状況は大きく変化している。そのような中で、社会教育活動と社会教育行政に関する評価はどうあるべきかという新たな視点に立って活動や評価方法が考えられなければならない」というような課題も上がっております。

続いて、4項目の文化芸術の振興です。

「文化財の保存と活用に関する4項目全てAである。言い換えれば計画的な取組がなされているということである。小鹿田焼の里景観保存や咸宜園保存整備事業など、進捗度において問題が見られるものもある」という点をいただいております。

また、下から3行目からですが、今年から文化芸術の部門が教育委員会に入ってきました。「文化芸術は、市民生活に欠かすことのできないものである。市民に伝わる情報発信の在り方を考え、適切な手段を活用することにより文化芸術に関する市民意識を高めることが教育行政に課せられた大きな課題である」というようにいただいております。

次のページに移っていただいて、「全体的に事業成果や評価などの説明で「取組ができた」「推進した」などの表記が見られるが、

その取組内容や推進内容を少し具体的に記述するほうがいいのか」というような御意見をいただいております。

続きまして、7ページからは森先生の御意見でございます。

大きい項目の教育委員会の運営・活動についての最初の大きい段落は、この点検評価の概要について記述をしていただいております。その下のほうには全体的な評価として「平成27年度は、5年間の計画達成の終了する前年ということもあり、教育全般にその成果を得るべく積極的な努力をしてきたことを見ることができ、高い評価ができる」というように評価をいただいております。

また、その次の段落ですが「教育委員が2名増員され7名体制となっている。このことは市民から多くの意見を吸収し、そこから生まれるであろう教育情報を発信する門戸として、大きな役割を果たすことになると思われる」ということで記述がございましたが、一番下でございますが「しかし、市町村合併や少子高齢化が進む社会現象や教育環境の変化の中で、教育施設の統廃合や小・中一貫校導入等の推進は、選択肢の一つとして考えなければならない問題であろう」次のページですが「小学校の存在は、地域集落の大きな構成要因となっている。つまり、「地域集落の核」としてその歴史を刻んできたのである。小学校の教育施設がこれまで教育行政の中で果たしてきた役割をもう一度考えてみてほしい」というような要望もいただいております。

続きまして2番目の項目で、事務・事業の管理及び執行についてです。特に学校教育の充実の中では「「広瀬淡窓と咸宜園教育の理念」は、日田市の特有の教育環境をつくり上げている」という中で、2番目の段落になりますけども「しかし」からです。「広瀬淡窓と咸宜園教育の理念を理解するには」から始まって「咸宜園教育研究センターの充実を図るということである。この教育研究センターを中心とし、教職員の研修の場、あるいは生徒の父母や一般社会人を対象とした学習の場を提供するのである。学校教育とは別に社会教育とも連動するなど、一層の深みを持った努力を続けてほしい」というような要望をいただいております。

続きまして、8ページの一番下からが社会教育の充実です。

社会教育の充実の中で森先生からいただいている御意見として主なものは、9ページの中ほどの出だしが「旧日田市博物館は」から始まる場所ですが、4行飛ばして「博物館を構成する要因として①が展示する資料を有する、②資料の解析のできる研究者（学芸員）がいる、③資料を展示する施設が存在するの3点である」ということで、1つでも欠けると博物館としての機能が果たせませんという御意見と、もう1つ、図書館の機能の充実について、「現在運

営手法の選択の検討をしているが、その手法がまだ決定していない。そこで進捗度の評価を「3」と低くしているが、この「3」という評価には一考を促したい」その理由というのはその下のほうに、平成26年度に前評価委員からいただいた意見を少し書いています。具体的には「拙速にならないように」という意見が述べられているということでございます。

それから、最後の3行でございますが「基本的に図書館とは「静かに読書し、学習する場」であり、自然環境に恵まれた日田市の図書館は、静かな環境である図書館であってほしい。商品化された図書館であってはいけない」という御意見をいただいております。

10ページが文化芸術の振興ですが、この中で特に文化財の保護が先生の専門ですので、「文化財の保護と活用に関する業務については、文化財保護課を中心に咸宜園教育研究センターと世界遺産推進室において進められている。特に、その進捗度の評価を数値化するのは難しい事業であるが、日田市という特色のある歴史環境の中で、息の長い作業が進められていることは高く評価できる」というような意見をいただいております。ただ、これらの文化財の活用について最後の3行にあります、「日田市の観光事業推進にも多くの素材として提供できる。観光と教育が連動した事業となれば、また教育委員会の異なった教育政策として、市民は高い評価を与えてくれると思う」という御意見をいただいております。

10ページの中ごろほどからが、別府大学の長尾先生です。

長尾先生の御意見で特に目立つ部分は、11ページの一番上の行にあります「総合教育会議が設置され、教育委員会と市長との強い連携が求められている」という部分ですが、最後のところで「特に、人口変動・減少は避けて通れない。持続可能な社会の形成に向けての日田の教育、社会資源をどう活用していくのか、積極的な情報収集や議論が行われることを期待したい」というようにいただいております。

大きい2番目の事務・事業の管理及び執行についてですが、学校教育の充実では、「26年度の評価で「確かな学力育成支援事業」のみがBであったが今年はA評価となっている。その背景に「学習内容の確実な定着を図り、弱点を補強する取組ができた」ことが挙げられている。しかし、26年度の「課題と今後の方向性」で示された確認テストには即時的な効果があるが、一般的にその効果はテスト慣れによるものであり、児童生徒本人は賢くなったのか実感が得られにくいと言われている。点数の増減で確かな学力の育成が測定できるのか再考を求めたい。むしろ、授業が理解できているか、学習意欲が向上したか、わかる喜びは感じているか、教師もそれを

	<p>実感しているかなどの指標のほうが適切ではないかと考える」という御意見をいただいております。</p> <p>12ページをご覧ください。</p> <p>12ページが長尾先生の御専門の分野となります社会教育の充実ですが、12ページの上から3行目です。「各公民館で事業が異なっている。地域のニーズ・特性・課題に沿った内容となっているのか、全市的、専門的、戦略的な視野から事業団の外部評価が行われることが求められる」というような意見をいただいております。</p> <p>次に、大きい段落の3番目、「遠隔地の図書貸し出し事業」については、利用者が少なくコストの問題が発生しているが、利用者負担を安易に求めるのではなく、遠隔地においても行政サービスが手薄にならないよう遠隔地サービスの維持の方向性が求められる」という意見もいただいております。</p> <p>また、「スポーツ活動のための基盤づくりでは、市民体育大会の参加者数を維持し続け、健康マラソン大会、ヒルクライムレース大会の参加者が増加している。スポーツの振興と観光との連携の効果が現れている」という評価をいただいております。</p> <p>最後4番目、文化芸術の振興の部分ですが、真ん中あたりに「平成26年度の成果と評価、今後の課題と方向性をきちんと踏まえて、27年度の事業は実施されている。27年度の事業評価は全体的にも高い水準である」というような評価をいただいております。</p> <p>以上、3人の先生方からいただいた、評価・意見の概要を説明させていただきました。</p> <p>以上でございます。</p>
永山委員長	<p>ありがとうございます。報告第25号について御質問などありませんか。</p>
教育総務課長	<p>補足ですが、前回、諫本委員から、この評価をどういうふうにPDCAサイクルで反映するのかという御質問がありましたが、まだ予算要求の段階ですので確定したわけではございませんが、いただいた意見の中には、来年度の事業に計画をして予算要求しているものもございます。ただ、財政状況が厳しい中ですので、要求した予算がそのとおりにつくかというのはまだ確定ではありませんので、今の段階では、どの意見に対して予算要求をしておりますというのは申し上げられませんが、来年度の予算が確定した段階では説明を申し上げたいと考えております。</p>
永山委員長	<p>報告第25号について御質問などありませんか。</p>

	<p>1つ質問です。長尾先生の大きい1番の中にある下から6行目くらいのところからですが、「教育懇談会は、回数と同じく質の向上も大事である。懇談会のテーマと主要な意見のやりとりなどを市民・現場に伝えていくことが求められる」とありますが、これは、毎年実施している教育懇談会のことですよ。懇談会の内容は、毎回、事務局でまとめていただいておりますが、公開はしていませんでしたか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>今年度の教育懇談会はまだ予定もしておりませんが、一度、過去3年分をまとめたものを作成し、教育委員の皆様方にお知らせしました。しかし、その資料につきましては、まだホームページに公開等を行っておりません。以前少しお話ししましたが、東有田地区から中学校の統廃合についての御意見もありましたので、このことについては、少し事務局のほうで整理をして、教育委員の皆様方で議論をお願いしたいとしております。中学校の統廃合のご意見につきましては、現在資料の作成を行っておりますが、中学校の統廃合を進めるというわけではありません。教育委員の皆様方に現状を知っていただくという意味での資料の作成を行っているということです。実際、9月議会で市長が中学校の統廃合はしないというように一般質問でもお答えしております。</p>
<p>永山委員長</p>	<p>ほかにありませんか。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>各先生方がいろいろ貴重な御意見をくださっているんですが、その先生方がいろいろ指摘してくださった御意見に対して、具体的にどう取り組むかっていうのはどういう場で話し合われるんですか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>2つあると思います。現在、29年度に向けて予算要求をする時期にきています。特に市長の政策的な判断を仰ぐ部分については、各課の予算要求が終わっておりますが、この中で幾つか御意見をいただいている部分についての予算要求をしているものもあります。それが1つです。</p> <p>もう1つは、市長の政策的な判断ではなく、いわゆる経常的に費用がいるもの、例えば人件費や補助金であるといったものに対する先生方の御意見については、予算の締め切りが11月21日となっております。市長の政策判断を待たずに各課で予算要求ができる締め切りになっておりますので、その中で反映をさせていただくということになります。また、早急に取り組まなくてもよい見直しについては、今年、教育行政実施方針を29年度以降5カ年分を作りま</p>

永山委員長	<p>すので、各課がこの方針の中に反映をさせていただくということになります。当然、それには目標年度と目標数値が上げられるものについては、具体的な数値を上げるということになります。</p> <p>ほかにありませんか。</p>
岡部委員	<p>1年前のこの評価と今回の評価との違う点は、教育委員が2名増員されたことです。山崎先生も森先生も触れられていますが、特に山崎先生は「2名増員されたことによって、従来の教育委員会とは異なった活動が展開されていく姿を市民にわかりやすく示すことが重要である」と。このとおりですが、実際、自分のことを1年振り返ってみて、まだ不十分という気もするので、また委員会の中で頑張っていきたいと思います。</p>
永山委員長	<p>ほかにありませんか。よろしいですか。</p> <p>それでは、報告第26号について説明をお願いします。</p>
教育総務課長	<p>報告第26号にいきます前に、先ほど岡部委員からいただいた御意見ですが、現在教育委員会の会議の形式がこういうふうになっておりますが、この形ですと事務局が委員の方に説明をするというような会議の形式になっております。11月15日から新しい教育委員会制度に変わりますので、教育委員の皆様方で、もう少し意見を出しやすいような、会議の机の配置も事務局で考えたいと思いますので、ぜひいろんな意見を教育委員の皆様方からいただけるような会議のつくり方も事務局で検討したいと思いますので、ぜひよろしくお願い申し上げます。</p> <p>続きまして、報告第26号をお願いいたします。議案集の13ページから18ページです。</p> <p>報告第26号、第6次日田市総合計画・基本構想（案）についてでございます。現在10月12日から11月10日までを期間として、政策企画課が総合計画の基本構想（案）についてパブリックコメントを上げております。永山委員長が総合計画の審議会の委員にもなっていると思いますので、この場をお借りして現在政策企画課が（案）としてお示しをしております第6次日田市総合計画の基本構想（案）について、少し概略を説明させていただきたいと思っております。</p> <p>13ページをお願いします。</p> <p>日田市総合計画の基本構想ですが、大きく1番は、目的と理由です。これは、「市政の計画的な運営を目的に策定する総合計画は、</p>

日田市が目指す将来像や政策を実行する上での基本的な方針を明らかにするものです」ということで、その下の3行は、第6次総合計画を策定するに至った経過を書いております。最後の3行ですが、総合計画は「基本構想」と「基本計画」と「実施計画」の3つで構成されておりますが、今回は総合計画のうち「基本構想」についての意見の募集を求めるものです。

具体的な内容は2番目のほうになっておりますが、2番目の1番、日田市の将来像ですが、「ともにつくる 一人ひとりが主役のひた」、それと2番目が人口の将来指標、これは後ほど説明させていただきます。そして3つ目のまちづくりの大綱、6つの政策が、そこにございますように『きずなを強める』から一番下の『水と緑を宝にする』の6つで、教育委員会の部分が下から2行目の「『学ぶ楽しさを増やす』 ～ 学ぶ機会に満ちる ひた ～」となっております。

1ページめくっていただいて、14ページが基本構想の方針で、15ページから具体的な内容になっております。基本構想の策定にあたっての(2)をご覧ください。まず計画の期間ですが、第6次日田市総合計画の基本構想の計画期間は、平成29年度から平成39年度の11年間とします。この11年間というのは、この総合計画が今年度中に策定されますが、現在の原田市長の任期が残り3年になります。その3年に市長の任期が1期4年ですので、4年と4年足して8、プラス3で11年になりますので、今回の総合計画の期間を11年としています。

そして大きい1番、日田市の将来像は「ともにつくる 一人ひとりが主役のひた」ということで、「健康で安心して住み続けられる」「やりがいとにぎわいがある」とか幾つかのまちの将来像を実現するための言葉となっております。

1ページをめくっていただいて、16ページが先ほどございました「人口の将来指標」となっております。表が2つありますが、上のほうの表をご覧ください。これが日田市の人口推計です。赤い線と水色の線がございます。水色の線が国立社会保障・人口問題研究所が作成したデータで、平成52年ですから2040年の総人口が4万9,139人、そして2060年度の推計人口が3万5,715人ということで、今の人口で約半分を切るような人口になってしまうというような将来人口の推計がありましたが、昨年、総合戦略を策定いたしましたので、その総合戦略に基づいた事務事業を行うことで、日田市では将来的に2060年は5万人を何とかキープする人口を維持したいということで、この総合計画の最終年度2027年の推計人口が、ちょうど真ん中より左のほうに水色の線がござい

ますが、2027年の人口を6万2,311人ということで推計し、将来指標とまちづくりの大綱をお示ししております。

17ページからが具体的な6つのまちづくりの大綱となっております。

まず1つ目が「『きずなを強める』～人の力が活かされるひた～」これは、いわゆる市民協働の部分となっております。2番目が「『住む安心を高める』～いつまでも暮らしたいひた～」これは、福祉、あるいは防災の部分です。3つ目が「『やりがいと魅力をつくる』～価値を磨き続けるひた～」これが、いわゆる日田の産業の活性化の部分ということになります。次の18ページが「『安全で快適に暮らす』～便利も快適もそろえるひた～」で、インフラの整備の部分となっております。次が教育文化の部分で「『学ぶ楽しさを増やす』～学ぶ機会に満ちるひた～」という記述で、その下に具体的にはどういったことであるかということを書いてありますが、皆様方にお作りいただいた日田市教育大綱の基本理念と5つの基本方針の言葉をつなぎ合わせた文言となっております。例えば、基本理念は「未来を切り拓き、ふるさとを愛するひとづくり」でしたが、大きい2段目の段落の途中から「ふるさとを愛し、未来を切り拓く」というような言葉を取り入れております。

また、基本方針の中には「夢と誇り」や「誰でもいつでも学べる場」「スポーツや芸術」また「咸宜園」という具体的なふるさとを代表する歴史や文化、そういったものを記述しておりましたので、それらの文言も含めたこの「『学ぶ楽しさを増やす』～学ぶ機会に満ちるひた～」を具体的に表現する言葉というふうに整理しております。

そして、最後が『水と緑を宝にする』、これは環境の部分で「～自然の宝を光らせるひた～」ということで、ご覧になって分かるように、簡単な言葉でまず具体的にインパクトの強い言葉を言って、最後が「何とかな何とかひた」という言葉で終わるような統一性を持った6つの大綱となっております。

この6つの大綱については、市役所の中でも政策会議を開催する中でいろいろ議論がございました。「何か少し語呂が悪い」という意見もありましたし、「まちづくりの大綱にふさわしい言葉になっているのかどうか」など、いろいろございました。教育委員会ではできれば「学ぶ機会に満ちる」というよりも「学びのまちひた」でもいいんじゃないかという教育長からの御意見もございましたが、幅広い市民の方からのパブリックコメントをいただくという機会もございましたので、まずは政策企画課の意見を尊重して、現在パブリッ

	<p>クコメントに上げているところでございます。</p> <p>また、今後永山委員長が出席して2回、3回と総合計画の審議会も開催されると思いますので、ぜひ、また皆様方から御意見があれば委員を通じて、この審議会の中で御意見を挙げていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
永山委員長	<p>ありがとうございます。報告第26号について御質問などありませんか。よろしいですか。</p> <p>では、報告第27号についてお願いします。</p>
学校教育課長	<p>学校教育課でございます。報告第27号、平成28年度全国学力・学習状況調査結果について御報告をいたします。</p> <p>別冊を用意しておりますので、別冊1で説明をいたします。</p> <p>まず1ページをご覧ください。</p> <p>実施日は4月19日、調査対象は小学校6年生と中学校3年生。調査内容につきましては(3)にあります教科と領域、学習、生活に関する質問紙でございます。なお、A問題は主として知識に関する問題、B問題は主として活用に関する問題となっております。</p> <p>(5)に本調査の報告にかかわる用語の説明をしております。</p> <p>平成28年度調査結果の概要でございます。数値は平均正答率、色つき部分は全国正答率を超えた部分となります。</p> <p>まず、小学校6年生は、今回全ての教科、領域で全国大分県の正答率を上回るという、引き続き良好な結果でございました。</p> <p>また、2ページの3のグラフと表、これは全国比、100以上は全国平均を上回る値となるんですが、前年度、27年度の結果から見ても昨年度算数のB、活用が全国値を下回っておりましたが、今回は改善をしております。平成25年度以降、国語、算数ともほとんどの教科、領域で全国値を上回っているという状況でございます。</p> <p>一方、中学校3年生の結果になりますが、1ページに戻っていただいて国語のA、B、数学のA、Bと、全ての教科、領域で全国の正答率を下回るという結果でございました。県の正答率からでは国語のA問題のみ上回り、他は下回っているという結果でございます。これを2ページ下段の前年度、27年度の結果から見ますと、数学のAのみ昨年度から0.3ポイント下回っておりますが、他の教科、領域は前年度を上回っているということで、昨年度より全国比は縮まっているというところでございます。ただ、平成25年度からの推移がございましたけども、そこから見てみましても国語と</p>

数学、特に数学はこの4年間A、B問題とも全国値を下回っているという状況でございます。

以上が、今回の全国学力・学習状況調査結果の概略となります。現在市教委では授業改善、補充学習、家庭学習等きめ細かな指導の取組を進めています。市内各学校でも同一步調で取り組んでおりますし、特に中学校では管理職のリーダーシップのもとにその取組を進めています。しかしながら、4月の学力の調査結果から見ますと、中学校2年生対象の大分県の調査結果では向上が見られています。ただ、中学校3年生対象の全国調査では結果に結びついていないと言えらるかと思ひます。では、その取組が本当に進んでいないかと言ひますと、児童生徒の質問紙の調査結果というのがあります、その取組の状況が質問紙の結果に現れておりますので、3ページを見ていただきたいと思ひます。これは、児童生徒質問紙の調査結果の概略でございます。数値は、肯定的回答の割合をパーセントで表してあります。色つきが全国より5ポイント以上高い数値、二重枠が全国より5ポイント以上低い数値、下線部は全国より低い数値となっております。

一番上の表は自尊意識、将来に対する意識、規範意識や学校生活等の質問、中段の表は基本的な生活習慣や家庭での学習習慣の質問となっております。日田市の児童生徒の肯定的回答は全国より低い回答もありますが、ほとんどの項目で前年度よりも向上しています。特に中学校では、全ての項目で向上しています。

次に、授業での学習状況、いわゆる県教委が授業改善のために進めている「新大分スタンダード」に関する質問や、「学びに向かう力」に関する質問の回答が3ページから4ページの上段にあります。これも昨年度よりほとんどの項目で肯定的回答が向上しておりますし、全国比より5%以上高い項目もあります。また、全国比以上の項目も多くなっているという状況にあります。特にうれしいのが、4ページの上から3つ目、「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてくれますか」という肯定的回答が全国比よりも5%以上高くなっています。

最後に(2)の教科の学習に関する関心・意欲・態度に関する回答状況ですが、「授業が好きですか」「よく分かりますか」という質問でも全国比より低い項目もありますが、前年度の比較から申しますと向上している項目がほとんど、特に中学校では全ての項目で上回っております。つまり、児童生徒の学習に関する関心・意欲が向上してきているという結果となっております。このことから考えますと、各学校では授業改善、補充学習、家庭学習の取組が進んできています。ただし、生徒の力をつけきれていないということが今回

	<p>明らかになったと捉えています。つまり、学力には3つの力があるというふうに言われています。「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んで得た力」その中の「学ぼうとする力」や「学ぶ力」は上がってきています。ただ、最後の「学んで得た力」、いわゆるテスト結果に生かしきれていないということになります。授業であれば講義形式から生徒主体型の授業に確実に変わってきています。ただ、授業での話し合いの場面は設定しているものの、ねらいや課題に迫る話し合いになっているのか、あるいはねらいや課題を設定しているんですけども、ねらいや課題の中身はどうなっているんですかという質の問題、補充学習の時間も確保しています。確保しているんですけども対象者や指導内容は今のままでいいのか、弱点を補強するための補充学習になっているのか、これは家庭学習でも同じだというふうに思います。形態はできていますが内容、要は質というところ、これが課題であるということになります。</p> <p>今後は、7ページと8ページにあります今後の取組に基づきながら、県全体で取り組んでいくことと日田市独自で取り組んでいくことを着実に徹底させていくことが大切だと考えております。</p> <p>また、7ページの(2)学力向上プランの確実な遂行として、今回のテスト結果を受けて各学校では2学期以降の取り組んでいく具体的な取組を検証・改善しておりますので、その取組を確実に進めていくように質の向上をキーワードとして指導助言に努めていきたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
永山委員長	<p>ありがとうございます。報告第27号について御質問などありませんか。</p>
岡部委員	<p>単純に考えて小学校6年生はまずまずの結果で悪くない。中学校3年生が結果としてはよくないんですが、昨年度もよくなかったですね。今回、数学が少し上がっています。中学校を3年前と比べるとかなり悪いですね。それから中学3年生の平成28年度、これは上の小学校の平成25年度と同じ子供たちです。3年前の自分、この時小学校はほとんどが全国より上回っている。そういうことで、どこと比較するかによって見方が違うんですが、去年の3年生と比較するとそんなに変わらない。3年前の3年生と比べると悪い。それから、自分たちの3年前、小学校6年生の時と比べると、どれもほとんどが全国より上回っているのが落ちている。先ほどの課長の話を聞いていると、取り組む姿勢や先生方からよく間違えたところを教えてくださいということで、それはいいんですが、特に中学3年</p>

	<p>生というのは結果が大事だと思います。もうすぐ高校受験をするわけですから。ですから、途中の取組が上向いてきたということは、いいことですが、高校入試の前に、ある程度結果が出るような方法でいかないと親は心配じゃないかと思うんです。かといって今すぐ学校現場でどうにかしてくれという気はまるでないんですが、ただ途中がよくなったからよかったとか、途中経過がいいからとかではなく、結果を出すためにはどうすればいいかということはある程度工夫したほうがいいんじゃないかと思うんです。8ページの下の方の中学校の今後の取組として（7）番ですが、「日田市統一の「確認テスト」を実施し、基礎基本の確実な定着を図る」とありますが、これは今年度から始めるわけですか。もう過去から実施しているんですか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>3年前から取り組んでいます。</p>
<p>岡部委員</p>	<p>そうすると、去年も似たような状況になって、余り実を結んでないというようなことになるんですか。小学校の場合は、まだ間がありますが、3年前より少し落ちたような、全国的に見て。余り追いつくと悪いと思いますが、もうすぐ高校受験するわけですので、何かこう心配があるんですが。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>岡部委員がおっしゃることももっともだと思います。今の中学3年生、これが日田市だけではなくて大分県全体がそうです。小学校は、もうずっと高い。それが中学生になると結果が出てこないという傾向があります。ちょうど10年前から全国学力・学習状況調査が始まって、その時は中学校も小学校も全国的に大分県が低い状況でした。それを取組を進めていくと小学校は上がってくるんですが、中学校が上がっていない。これは日田市に限ったものではなくて、今でも大分県では中学校が小学校に比べると、厳しい状況にあると言えます。その中で、日田市でもいろいろな取組をしてきています。授業改善であるとか補充学習とか、特に補充学習は今までは担任に任せていた、教科担当に任せていた。そういった取組も今では学校の組織として取り組むように位置づいています。そのことによって中学校2年生が受けるテスト、いわゆる県のテストですが、これは、中学校1年生の学習内容を中2の4月に受けるものです。それについては結果として上がってきています。ところが、中学3年生の4月で受けるテストになると、学習内容が定着できていない。ということは、今行っている取組がまだまだ内容の問題もあるとは思いますが、中学校2年生の中で定着させきれていない。た</p>

	<p>だ、1つ岡部委員がおっしゃっていた高校入試ですが、高校入試に向けて中学校では受験対策として、各学校では中学校2年生の2月ぐらいから受験対策学習、いわゆるセミナー学習を行っています。他の市町村ではセミナー学習を行っていないところがほとんどだと聞いています。日田市では受験対策として中学校1年生からの学習内容を、1年間かけてみっちり、鍛え上げて中学校3年生で高校受験に対応できるような取組を行っています。ですから、中学校2年生までの結果がなかなか今出ていないということは受けとめなければいけませんし、やらなければいけません。ただ、受験対策は別なところでセミナー学習を行っているという状況はございます。</p>
岡 部 委 員	<p>そのセミナー学習の成果というのは、この全国学力テストにはまだ反映してないんでしょうか。</p>
学 校 教 育 課 長	<p>セミナー学習を始めるのが大体2月ぐらいです。 2月ぐらいに、中1の最初のところで1講座、2講座と言いますが、2講座ぐらいですから1年生のスタートのところぐらいです。そこまでを復習をします。それから先ずっと1年間かけて総復習をしていくようなものになります。</p>
教 育 長	<p>補足でよろしいですか。小学校では、これまで日田市はずっといい結果を出しています。県の平均以上、あるいは平均でいけば日田市はずっといい結果を出してきているという結果が出ているんですが、ここ数年、中学校1年生の終わり、各学年の終わりの1月に日田市独自でテストします。全校一斉、全小中学校です。この時に、中学校1年生、中学校2年生が受けるんですが、ここでは、小学校の時の力を中学校1年間で、ここまで落としてないという結果が出ています。それから、この子たちが小学校6年生から中学1年生になって1年間経った1月と3カ月後の4月にテストを受けます。これが中2の最初の4月のテストです。これは、今の3年生は全教科で県平均、全国平均を超えた学年ですから、今年の中学3年生は私どもも今年は全国を超える、あるいは県平均を超えるチャンスだというふうに捉えていました。ところがふたをあけたら全て下回っているという結果が出ましたので、中学校の校長以下教員も非常にショックを受けております。これはなぜかと。これまでも小学校の力を中学で落としてきているということは、学校の教員も認識は持っていたと思うんですが、今年こそは全国を超えるんだと意気込んでいたわけですけども、そのために確認テストやいろんな取組をしていたんですが、各市町村、それから全国で、このテス</p>

	<p>ト対策に取り組んできているという状況もあると思うんですが、やはり、日田市では中学2年生のときに力を落としている、他の市町村に比べて。私たちも駅伝を走っているような状態ですから、他の市町村に抜かれているという状況です。点数で言えば、数学の基礎問題は20問ぐらい、B問題は十二、三問題です。その20問の中で日田市が平均で14.2問、全国は14.8問と、そのぐらいの差なんですけど、それでも平均点で言えば、落としている、点数で言えば抜かれているという状況です。ですから、やはり中2に課題があるというふうに捉えて、行事の見直しであるとか勉強の仕方であるとか、1年間通して中2は特に二学期が新人戦だったり修学旅行であったり文化祭、体育祭、そして生徒会、学校の中心になるんだということでもう行事が目白押しであります。先生方も忙しい中で、少し学力に向けての家庭学習や授業を目いっぱい先生たちも一生懸命取り組んでいます。やはり子供たちが本当に追いまわられて勉強するのではなくて、「勉強って楽しいんだ」とか「自分から予習していく」など、ある程度そういう方向に持っていかないと、子供にも時間を少し与えてやらないと、今どちらかという詰り込んで学力をつけようという感じですので、そこが少し課題であるというふうには捉えています。いずれにしても学校教育課で一生懸命取り組んで、子供たちも勉強が楽しくなったという回答はしていますので、結果が出るように取り組んでいきたいというふうに考えているところでございます。</p>
岡 部 委 員	<p>教育委員の立場として申し上げているだけで、別に学校現場でもっと厳しくしてくださいという気はまるでありませんので、そこはもう一生懸命やっておられると思います。</p>
佐 藤 委 員	<p>今のお話で意見でも質問でもないんですが、母親としての感想だけで申し訳ないんですが、本当に子供たち忙しすぎて、次から次へと行事、それから部活があつて、もう帰って来るとかなり疲れているんです。あんなに疲れている状態で勉強しても頭に入っているのかなってよく感じます。もう少し、確かに行事があつたほうが学校は楽しいっていう面もあるのかもしれないんですが、少し減らしていただかないと落ち着いて学習する気力もないんじゃないかなって感じるの、それは各学校で行事は決めることなので難しいかもしれないんですけど、少し子供の負担を減らしていただいたほうが、落ち着いて学習に取り組めるのかなと感じます。</p> <p>以上です。</p>

教 育 長	<p>行事については今おっしゃるように、特に中学2年生が、非常に2学期が特に忙しいですから、教員の超過勤務、それから部活動の指導、これも課題になっておりますので、含めて子供たちが本当に追いまかれるような仕方で動いているもので、例えば水曜日は部活は休みにしていますが、週2回の部活動の休みの日など中体連等でも検討しておりますので、学校の中、あるいは保護者と一緒になってこうあるべき、よりよい姿がどうなのかを各学校でご意見いただくのが一番望ましい形だというふうに、私たちも当然そういう意見を積み上げて検討していきたいと思えます。</p>
永 山 委 員 長	<p>ほかにありませんか。よろしいですか。 では、その他に入ります。11月定例教育委員会会議の日程についてお願いします。</p>
教 育 総 務 課 長	<p>11月の定例教育委員会でございますが、11月24日の木曜日になります。1時半から勉強会、3時から定例教育委員会をお願いしたいと思います。お手元にスケジュール表がございますが、11月は、1日が平成28年度「おおいた教育の日」推進大会が杵築市にて開催されます。また、9日と16日が学校訪問でお忙しいとは思いますが、日程調整をどうぞよろしくお願いいたします。 以上でございます。</p>
永 山 委 員 長	<p>ありがとうございます。 そのほか何かお知らせなどありませんか。よろしいですか。 では、そのほかの意見がなければ、これで10月定例教育委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。</p> <p style="text-align: right;">終了時刻：午後4時12分</p>